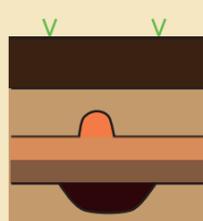


大津天神堂遺跡の今まで

—これまでの成果から

畑があったところをに家を建てたり、空き地を駐車場にしたり——、土地の利用は一度きりとは限りません。今回の調査では2つの異なる生活の面が見つかりました。



1面目 16世紀～17世紀前半（約400年前）
→水田跡が砂でパックされた状態で見つかりました。

2面目 15世紀（約550年前）
室町時代の屋敷跡が見つっています
1面目から2面目の間の土層からは、多数の土器が出土しました

2か月前の調査から

1面目で見つかった水田跡から、400年前には、今と同じような風景が広がっていたことが分かりました

水田～畔と水口

高さ10cmほどの畔で仕切られていました。畔には、田んぼの高いほうから低いほうへ水を送る、水口が設けられています。

足あと

水田の床土には、当時の足跡が残っていました。ドロドロの田んぼで作業をして、そのまま土が固まり残ったのだと思われます。

畑跡

少し地面が高まっているところでは、畑跡と思われる溝と畔が見つかりました。



本日の説明・資料は現段階での成果に基づくであり、今後の検討によって、変更になる場合があります。

山梨県埋蔵文化財センター（山梨県庁 観光文化・スポーツ部）

<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>
電話 055-266-3016（平日8時30分～17時15分）



おおつてんじんどう いせき 2023年10月15日(日) 大津天神堂遺跡 現地説明会



つい最近まで、大津町にできるリニアの新駅周辺に、遺跡があるかどうか分かっていませんでした。しかし、2021年にセンターで試し掘りをしたところ、新しく、いくつかの遺跡の発見が！

今回は、最初の本格的な発掘調査となる、大津天神堂遺跡の紹介を行っていきます。

“発掘調査”とは…？

—遺跡は初めて、な方に

何百年もの間地中に埋まった遺跡でも、新しく道路や建物工事をする際に傷付いてしまうことも。

今回の調査地点ではリニア中央新幹線の新しい駅が建築予定ですので、皆さんが実際に遺跡の上に立つことができるのは、**今回が最初で最後**となります。

「じゃあ、どんな遺跡があったのか分からなくなってしまうの？」

…と思った**そこのアナタ！**

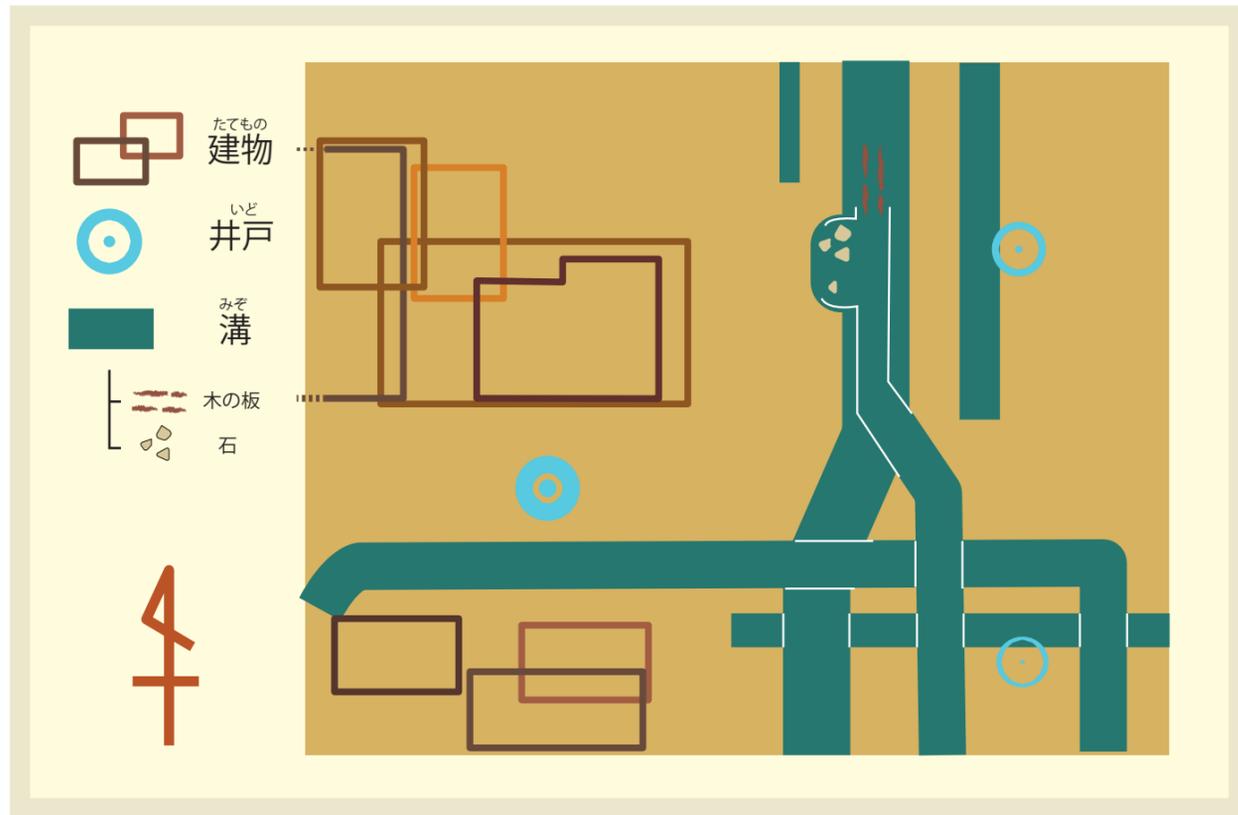
発掘調査が完了すると、『発掘調査報告書』に記録・成果をまとめ、大津天神堂遺跡がどのような遺跡だったのかいつでも見直すことができます。

チェックポイント

- ・遺跡 / 遺構 / 遺物
- ・考古学
- ・試し掘り

大津天神堂 案内 MAP

-550 年前・^{むろまちじだい}室町時代 Ver



ただの丸くて小さな穴。よく見てみると並んでいるものがあるのが分かります。

実は建物の柱を据えた跡（柱穴）^{ちゅうけつ}で、なかには当時の柱の木まで残っていたものもありました。

チェックポイント

- 掘立柱建物 ^{もくちゅう}
- 木柱
- 建て替え

写真上：ピンクのリボンが建物の跡
写真下：当時の建物を支えていた柱



ほったてばしら
掘立柱
たてもの
建物

今後、リニア中央新幹線の新駅となる予定の大津天神堂遺跡。約 550 年前の^{むろまちじだい}室町時代には、どのような土地の利用がされていたのでしょうか。



みぞ 溝

建物を囲うような溝の跡。おそらく土地の^{くかく}区画をしていたものと思われます。

中には大量の^{どき}土器・^{もくせいひん}木製品が見つかったものも。当時の人々が、溝の中に木の板を立て、水の^{ちようせい}流れを調整している様子も分かりました。

チェックポイント

- ^{くかくみぞ}区画溝
- 溝の作り直し
- しがらみ
- ^{あらば}洗い場



写真上：溝の中に作られたしがらみ
写真中：同じ溝でも遺物の量はマチマチ
写真下：洗い場の中 で見つかった横槌（よこづち）

要チェック
うるしわん
漆碗
を見！



いど 井戸

どれも溝のそばに作られていることが分かります。様々な種類がありますが、今回は^{すば}浅い素掘りの井戸が見つかりました。

チェックポイント

- 素掘りの理由

最終チェックポイント

- ✓現在は水田が広がっている大津天神堂遺跡ですが、550 年前には^{やしき}屋敷が建てられており、現在とまったく異なる景色が広がっていたことが分かりました
- ✓柱穴から^{ふくげん}復元した建物の大きさ、見つかった遺物などから、当時の有力者の屋敷であった可能性がります。
- ✓大津エリアでの初めての発掘調査、今後も調査が続きますので、当時の^{こうふんち}甲府盆地の人々の暮らしがより細かく分かるかもしれません